

週報

2007年 1月 14日



主の業に励もう コリント15:58

日本フリーメソジスト

清水草薙キリスト教会

教会学校	毎日曜日	午前 9:00
礼拝式	毎日曜日	午前 10:30
	(聖餐式 第一日曜日)	
夕礼拝式	毎日曜日	午後 7:00
エステル商会	毎水曜日	午前 10:30
聖書研究祈祷会	毎水曜日	午後 7:00
ホームページ	http://kusanagi.church.jp/	

〒424-0885

静岡県清水区草薙杉道3丁目2-26

☎0543-45-4070 E-Mail grace@big.jp

牧師 村上定幸

《今朝の聖書から》『ルカによる福音書』5:1~11が聖書箇所です。少しの間教会に集っている人なら誰でも知っている奇跡の物語の一つです。同じ出来事の記録が、マルコ福音書1:16~20にも出てきます。ルカよりも短いエッセンスがあります。そしてマルコでは、ルカが記録している“シモンは答えて言った、「先生、わたしたちは夜通し働きましたが、何も取れませんでした。しかし、お言葉ですから、網をおろしてみましよう」”(ルカ5:5)という不思議な出来事についてはありません。同じくマタイ福音書の記録も、不思議な出来事についてはありません(マタイ4:18~22)。このような奇跡に私たちが出会うとき、“そしてそのとおりにしたところ、おびただしい魚の群れがはいて、網が破れそうになった”というのが奇跡なのではなく、“漁師四人が、主に導かれて弟子となった”ことこそが、奇跡であったと判るのです。マタイもマルコも、人の救いのためには何の役にも立たない出来事を、奇跡として強調することはしていません。奇跡だと人が判断しなければ、奇跡でもなんでもありません。ルカも“聞き従う”ことから全てが始まったと述べています。“先生、わたしたちは夜通し働きましたが、何も取れませんでした。しかし、お言葉ですから、網をおろしてみましよう”(ルカ5:5)がそれです。彼らはガリラヤ湖のことを知り尽くしたプロの漁師だったのに、そのように応えているのです。これこそがイエス様の奇跡の初めなのです。魚が沢山とれたのは、“人間をとる漁師”(ルカ5:10)というイメージに過ぎません。彼らは教えられ(5:3)、声をかけられ(5:4)、従い(5:5)、出来事に直面し(5:6)、信仰の告白をし(5:8)、使命が与えられ(5:10)、働き手として献身をしているのです。“そこで彼らは舟を陸に引き上げ、いっさいを捨ててイエスに従った”(5:11)の“そこで”という言葉はこれらを全て含んだ言葉です。信仰者一人一人に実によく似ています。何らかのかたちで、この四人の漁師と同じように、“主に従った”という、奇跡の出来事を経験しているのです。私たちも、主に従いました。これこそ奇跡なのです。